



だて正夢

登米地域の稲作通信 第2号

令和6年6月3日発行
宮城県米づくり推進登米地方本部
宮城県登米農業改良普及センター
Tel: 0220-22-6127

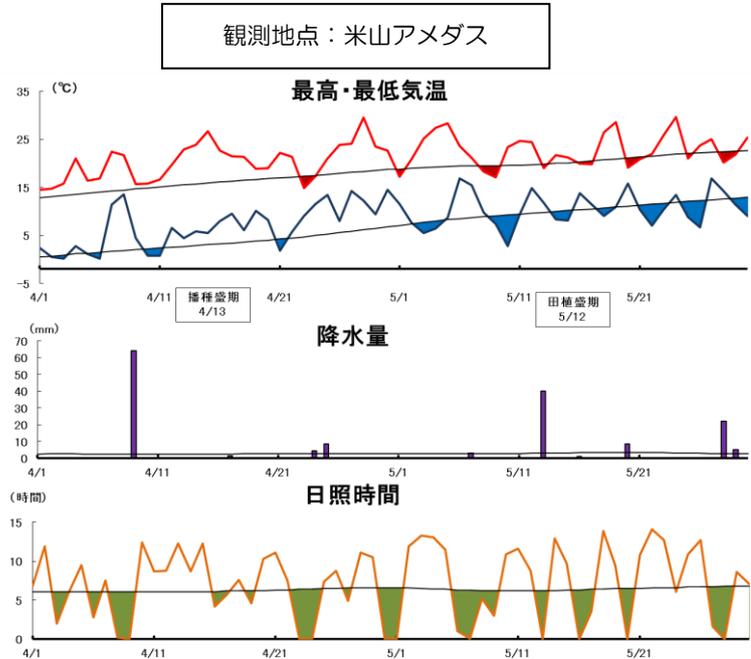


<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

1 気象経過

4月は平年よりも平均気温が約4℃高く推移し、暖かい月となりました。積算降水量は4月上旬にまとまった降雨があったものの、平年比103%とほぼ平年並となりました。日照時間は平年より多く平年比109%となりました。

5月も平年より気温が高く推移しました。5月上旬の積算降水量は平年比11%とかなり少なくなりました。日照時間は平年比112%と平年より多くなりました。



【東北地方の向こう1か月の天気予報】 令和6年5月30日 仙台管区气象台 発表

東北地方 1か月予報 (06/01~06/30)		
2024年05月30日14時30分 仙台管区气象台 発表		
向こう1か月 06/01~06/30	天候	期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
1週目 06/01~06/07	気温	1週目は、低い確率50%です。
2週目 06/08~06/14	気温	2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。
3~4週目 06/15~06/28	気温	3~4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

2 生育状況

【管内の田植え状況調査】

地帯区分	田植え					
	田植始期		田植盛期		田植終期	
	令和6年	平年	令和6年	平年	令和6年	平年
北部平坦	5月4日 (-1)	5月5日	5月12日 (-1)	5月13日	5月21日 (+1)	5月20日
三陸沿岸	5月5日 (-3)	5月7日	5月14日 (±0)	5月14日	5月22日 (±0)	5月22日
管内平均	5月4日 (-1)	5月5日	5月12日 (-1)	5月13日	5月21日 (+1)	5月20日

※田植始期・盛期・終期は、それぞれ5%、50%、95%田植が終了した日。

※平年値は、過去5か年(令和元年~令和5年)の平均値。

管内の田植は、始期(5%)は5月4日、盛期(50%)は5月12日、終期(95%)は5月21日で、始期、盛期は平年より1日早く、終期は1日遅くなりました。

5月中、下旬に気温の低い日もありましたが、おおむね気温は高く推移したため、活着は順調に進みました。

5月31日現在の各調査ほ場の生育は、田植えの早いほ場では分けつが出始めており順調に成長しています。

【水稲生育調査結果(移植)】

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点	栽培密度(株/m ²)	移植日	5月31日	
						草丈(cm)	茎数(本/m ²)
1	ひとめぼれ	Cタイプ	中田町	15.9	5月19日 前年比・差 +5日 平年比・差 +4日	18.8 74% 91%	74.7 110% 83%
2	ひとめぼれ	Cタイプ	登米町	16.0	5月16日 前年比・差 ±0日 平年比・差 ±0日	20.8 123% 121%	64.0 59% 73%
3	ササニシキ	Cタイプ (復活ササニシキ)	豊里町	14.8	5月13日 前年比・差 +1日 平年比・差 +1日	24.0 91% 94%	59.2 83% 77%
4	つや姫	Cタイプ	迫町	15.3	5月6日 前年比・差 — 平年比・差 —	28.2 — —	159.1 — —
5	だて正夢	—	迫町	19.3	5月14日 前年比・差 -7日 平年比・差 -1日	24.4 137% 110%	90.7 89% 80%
6	金のいぶき	—	登米町	16.5	確認中	25.8 92% 97%	62.7 62% 63%
7	つきあかり	—	豊里町	19.3	5月9日 前年比・差 — 平年比・差 —	31.4 — —	96.5 — —

※栽培タイプ

Cタイプ：農業・化学肥料節減栽培（慣行栽培の5割減、農業8成分、化学窒素成分3.5kg以下）

※平年値は、過去5か年（令和元年～令和5年）の平均値。

ただし、金のいぶきは調査4年目のため、過去3か年（令和3年～令和5年）の平均値。

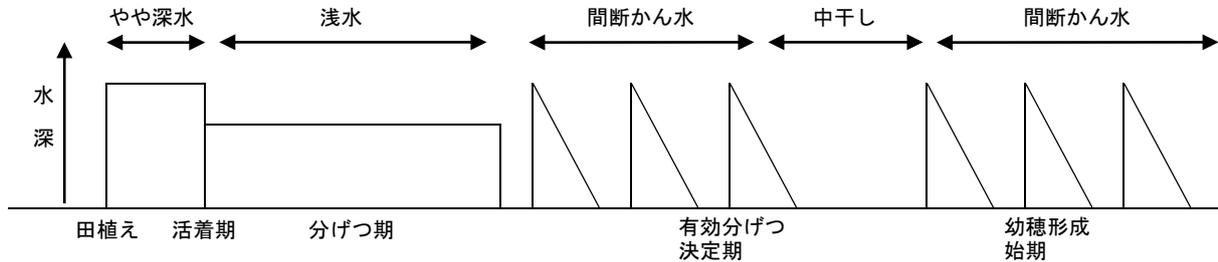
※つや姫、つきあかりは調査1年目のため、本年値のみ。

3 今後の管理

【水管理】

水温や地温の上昇を図り、分けつ発生を促すために、水深2～3cmの浅水管理を行いましょう。表層剥離の発生が多く見られる場合、ごく浅水で管理しましょう。

生わらや未熟堆肥をすき込んだほ場では地温の上昇とともにガス（硫化水素）が発生し、生育が阻害されることがありますので、ガスが発生した場合は一時落水し、溝切りをして土壌への酸素供給を行いましょう。



【病虫害防除】

① いもち病

残苗（補植用苗）は、本田でのいもち病の発生源となりますので、直ちに、ほ場から取り除き、埋没してください。ほ場の水管理や草刈りの際には、葉いもちの発生に注意し、早期発見・早期防除に努めましょう。

② 斑点米カメムシ類対策（草刈り）

斑点米カメムシ類防除の基本は耕種的防除（草刈り）と薬剤防除を、地域一斉に行うことです。効果的に防除を行い、カメムシ被害ゼロを目指しましょう。

主要種であるアカスジカスミカメの越冬世代成虫は6月上旬～中旬に発生し、特にイタリアンライグラスで繁殖します。

6月中旬までに、休耕田や雑草地・土手・畦畔等のイタリアンライグラス等のイネ科雑草を刈り取り、密度の低下に努めましょう。

③ イネミスゾウムシ、イネドロオウムシ

＜発生予報第2号 5月27日 宮城県病害虫防除所＞

- ◆イネドロオウムシ 発生時期は「やや早い（ふ化盛期 6月6日～6月10日）」
発生量は「やや少」
- ◆イネミスゾウムシ 発生時期は「平年並（成虫本田侵入盛期 5月26日～5月31日）」
発生量は「平年並」

箱施用剤を使用した場合は、基本的に本田での防除は必要ありませんが、発生がみられた場合、必要に応じ本田防除を実施してください。

殺虫成分チアメトキサムを含む育苗箱施用剤の長期連用は、水稻の初期害虫イネドロオウムシに対して薬剤感受性の低下を引き起こし、広域的に発生密度や被害程度が高くなるリスクを生じさせます。
チアメトキサムに限らず同一の育苗箱施用殺虫剤の長期連用により、イネドロオウムシの薬剤感受性の低下は起きることから、同一の育苗箱施用殺虫剤の長期連用は避けましょう。
普及に移す技術第94号（平成30年度）
「水稻のイネドロオウムシに対する殺虫成分チアメトキサムの薬剤感受性低下」

【雑草防除】

ノビエやイヌホタルイ等が本田内に残草すると斑点米カメムシ類を本田に呼び寄せてしまいます。本田内の除草に努めてください。
乾田直播栽培の場合、出芽が揃った1.5葉期頃を目安に入水します。入水後、減水深が安定次第、直播に登録の在る初中期一発剤を使用時期に合わせて散布します。
その後、稲の生育に合わせて深水にしていくと、後発のノビエやクサネムの抑制に効果的です。
※環境保全米では使用できる除草剤が限定されています。残草してしまった場合は、まずJAにご相談ください。
年々残草量が多くなっているような場合は、翌年以降のためにも一般米に切り替えて薬剤で徹底防除することを検討しましょう。

農薬の河川等への流出を防止するために、薬剤散布後7日間は落水、掛け流しはしないこと！

農作業中の熱中症を予防しましょう！！

夏に向けて、農作業中に熱中症になる人が増えてきます。
熱中症は正しい知識を身につけることで、適切に予防することが可能です。

* 予防のポイント *

暑さを避ける

高温時の作業は極力避け、日陰や風通しのよい場所で作業



こまめな休憩と水分補給

喉の渇きを感じる前に、こまめに水分・塩分を補給



単独作業は避ける

複数名で作業を行う、時間を決めて連絡をとり合う



熱中症対策アイテムの活用

帽子や吸湿速乾性の衣服の着用、空調服や送風機の活用



* 熱中症が疑われる場合には *

01 作業を中断



(代表的な症状)

- ・ 汗をかかない、体が熱い
- ・ めまい、吐き気、頭痛
- ・ 倦怠感、判断力低下

02 応急処置



- ・ 涼しい環境へ避難
- ・ 衣服をゆるめ体を冷やす
- ・ 水分・塩分を補給

03 病院へ



応急処置をしても症状が改善しない場合は医療機関で診療を受けましょう!!

農林水産省
熱中症対策パンフレット

3月1日～6月30日は「春の農作業安全運動」期間です。余裕をもった作業で農作業事故を防ぎましょう。
6月～8月は「農薬危被害防止運動」期間です。農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。